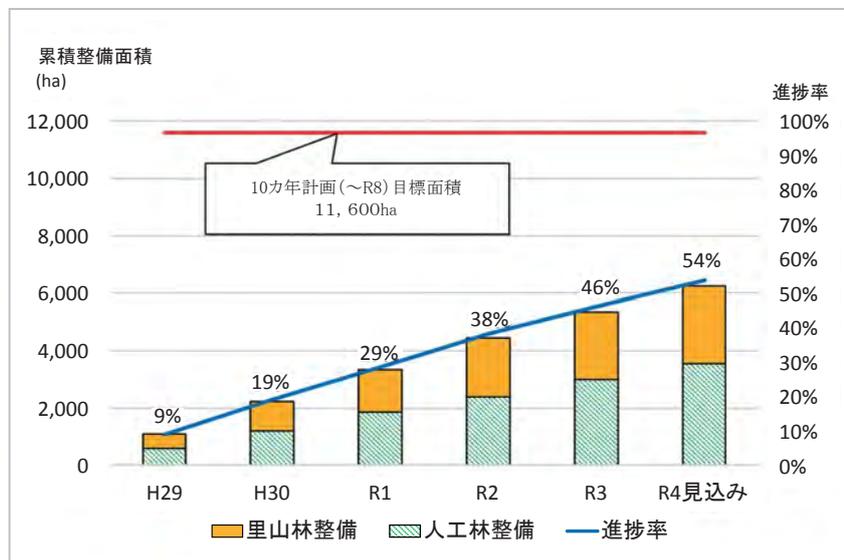
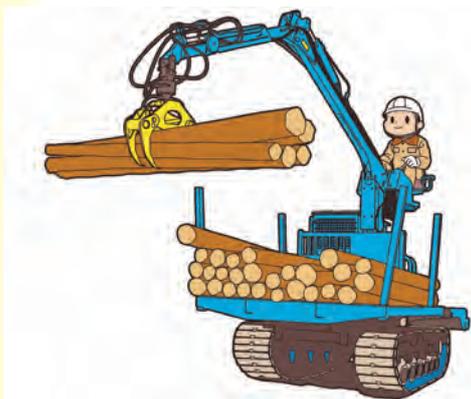


令和4年度の里山林整備の整備状況



平成29年度以降の荒廃森林緊急整備事業の実績

平成29年度から令和8年までの10年間で、11,600haの荒廃の恐れのある森林を整備する目標をたてており、令和4年度までに目標の54%を達成の見込みです。引き続き目標達成に向けて整備を進めてまいりますので、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。



# 再造林の支援(森林資源再生事業)について

森林の伐採後に植栽が行われず放置されると、森林の再生が遅れ、公益的機能の低下が懸念されます。森林資源再生事業では、森林の公益的機能を持続的に発揮させるため、やまがた緑環境税を活用し、再造林の経費の一部を支援しています。令和4年度は89ha実施見込みとなっています。



苗木(コンテナ苗)と専用の穴あけ器具(ディブル)



苗木を植える穴をあける

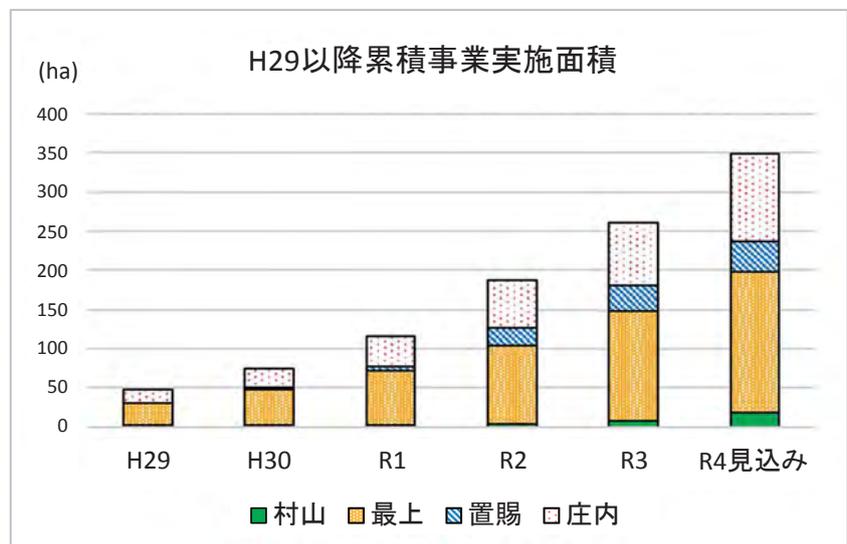


穴に苗を植え付ける

植付後の様子は表紙を飾っておりますのでご覧ください

## 平成29年度以降の森林資源再生事業の実績

平成29年度から令和4年度までに、350haの支援を実施見込みとなっています。



# 森林資源循環利用促進事業・ 広葉樹林健全化促進事業について

## 1 低質材の運搬経費の支援（森林資源循環利用促進事業）

間伐されたスギ等の木は全て利用されているとは限らず、形質が悪い・採算が合わない等の理由で、林内に放置されるものがあります(林地残材)。林地残材は大雨の時に流出する危険性や、資源の有効活用という点が大きな課題となっています。森林資源循環利用促進事業では、森林資源の循環利用を図り、森林の公益的機能の低下を防ぐため、伐採で発生した低質材を合板用材やチップ・ペレット等の木質バイオマス燃料として利用するための運搬経費の一部を支援しています。毎年4万m<sup>3</sup>前後の事業実績があり、県内の未利用材の活用に貢献しています。令和4年度は合板等の素材利用として23,664m<sup>3</sup>、チップ・ペレット等の木質バイオマス燃料利用として21,181m<sup>3</sup>、合計44,845m<sup>3</sup>分の支援を行う見込みです。



林内に放置された林地残材



工場へ運材



木質バイオマス燃料用チップ

## 2 ナラ枯れ被害木を含むナラ林の伐採の支援 （広葉樹林健全化促進事業）

山形県内では、平成20年頃よりカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が顕著になり、県内全域でミズナラやコナラなどのナラ類が多数枯死しました。広葉樹林健全化促進事業では、ナラ林の若返りと害虫の駆除を行うため、ナラ枯れ被害木を含むナラ林を伐採し、伐採木の搬出利用を行う伐採事業者に対して、経費の一部を支援しています。県内のナラ枯れ被害は近年減少傾向ですが、依然として村山地域を中心に被害が確認されているため、継続して被害拡大防止に取り組んでいきます。



カシノナガキクイムシ



ナラ枯れ被害林(赤く見えるのが枯死木)



ナラ枯れによる枯死木

# みどり豊かな森林環境づくりの推進

## みどり豊かな森林環境づくり推進事業とは

やまがたの豊かな緑を県民共有の財産として健全な状態で未来へ引き継ぐためには、荒廃のおそれのある森林の整備と併せて、県民一人ひとりが森林や自然環境を自らに直接関わる問題として捉え、積極的に森づくり活動等に参加することが必要となっています。

そのため、県では、地域住民や市町村等の多様な主体が行う計画的かつ広がりがあり、また、地域と連携して行う森づくり活動等を支援することで、多様な主体による県民参加の森づくりの推進を目指しています。

## 事業内容

### ① 豊かな森づくり活動

地域住民との協働による里山林の保全活動等



植樹



下刈り

### ② 自然環境保全活動

希少野生生物の生息地の保全活動等



外来種駆除



植生調査

### ③ 森や自然とのふれあい活動

子ども達や地域住民に対する森林・自然環境学習等



森林環境教育



植菌体験

### ④ 木に親しむ環境づくり

木材の地産地消の取組み、木工体験等



木工体験



木と触れ合う体験学習

## 各地域における取組み

### 村山地域

#### ③ 森や自然とのふれあい活動

【特定非営利活動法人葉山の里たしらの取組み（県民提案型）】

当会は、寒河江市立白岩小学校と連携して、里山の暮らしと里山保全の重要性を体験・学習する取組みを行っています。取組内容として、1年生は里山の動植物を探し、里山の自然の豊かさを知る活動、2年生は田代地域内を歩き、秋の恵みや地域の歴史に触れる活動、3年生は天下森でのトレッキングで、樹木の学習、里山の实情と森林整備の大切さを知る活動、5年生は「学びの里TASSHO」に宿泊し、里山に生息する動植物の学習等や薪（間伐材）で生活する体験を行い、里山の暮らしと里山保全の重要性を学んでいます。今後は、市内の他の小学校と連携を考えており、子ども達の探究心や冒険心を掻き立てる里山の森林環境を利用した体験を提供できるよう取り組んでいきます。



てんがもり  
天下森トレッキングでの学習状況